

板書

※板書は、縦書きでも横書きでもよい。

○大切なものを口で囲む、問われていることが一目で分かるようにする。(見える化、共有化)

児童の発言が教材である！

◎児童の発言が出て、道徳がスタートする！

(いい話だなあ⇒「何がいい?」・・・広げる)

(迷っている⇒「何と何に迷っているの?」・・・具体的に)

「ああ、そうか。」
「ううん、ちょっと違うな。」
「それは…。」

○児童の発言を逃さず板書して生かすこと、視覚化して共有化させることが大切である。そのため、学習の展開や終末の場面で意図的に児童に板書を見せることも必要である。

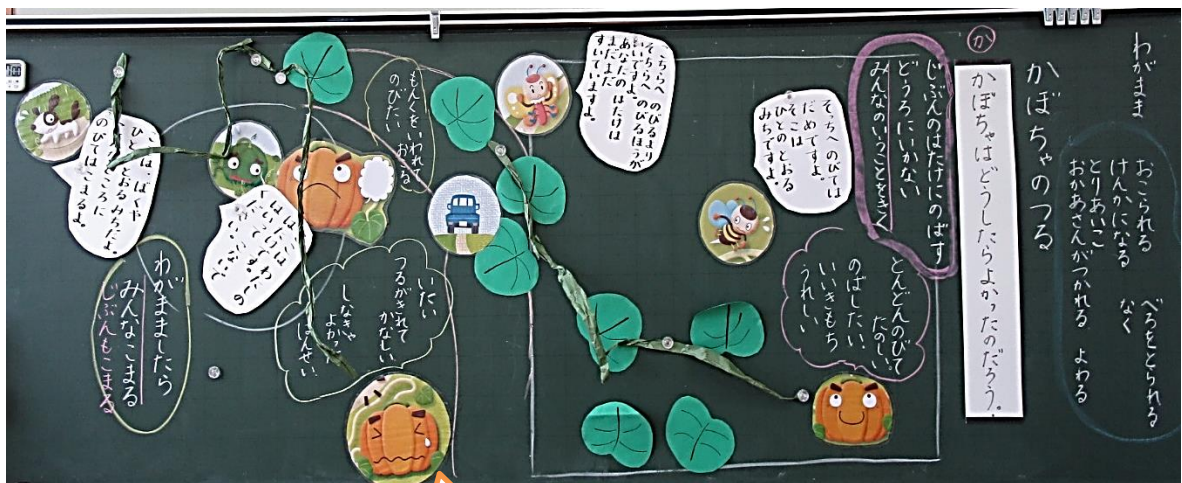
(板書例)



「うちのねこ」

場面ごとに登場人物の気持ちに沿って順序よく表す

1・2年



「かぼちゃのつる」

お話が一目でわかるように

1・2年



「ぼくは MVP」

両方の立場を考え矢印で表す

九月二十日 曜日 日直



「さか上がり」

価値を子供のことでまとめ、これからの生活へ生かす

三月四年

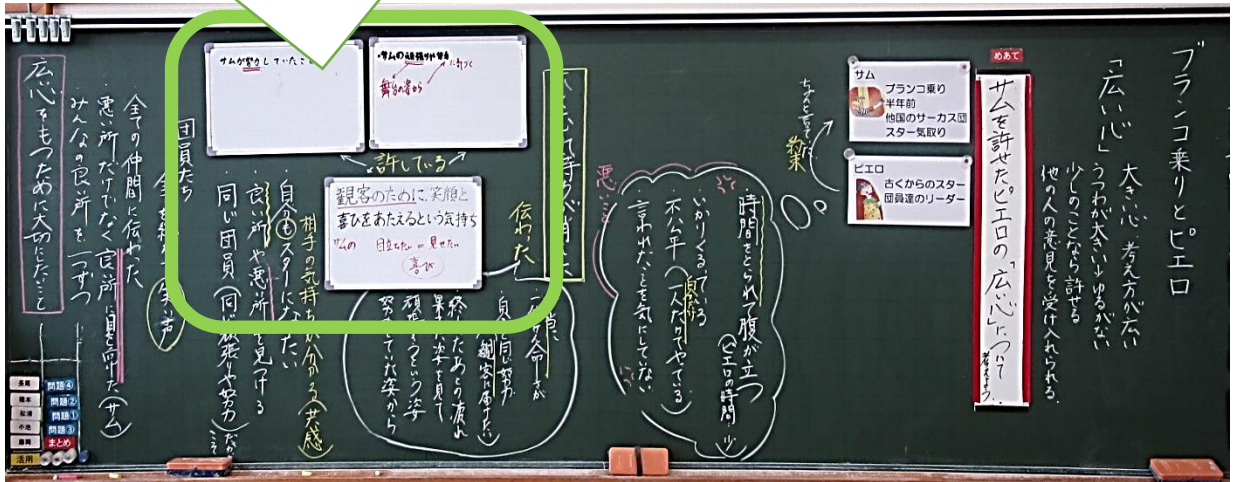


「また来てね」

自分の考えをネームカードで表示する

五月六年

ホワイトボードに話し合ったことをまとめて提示する



「ブランコ乗りとピエロ」

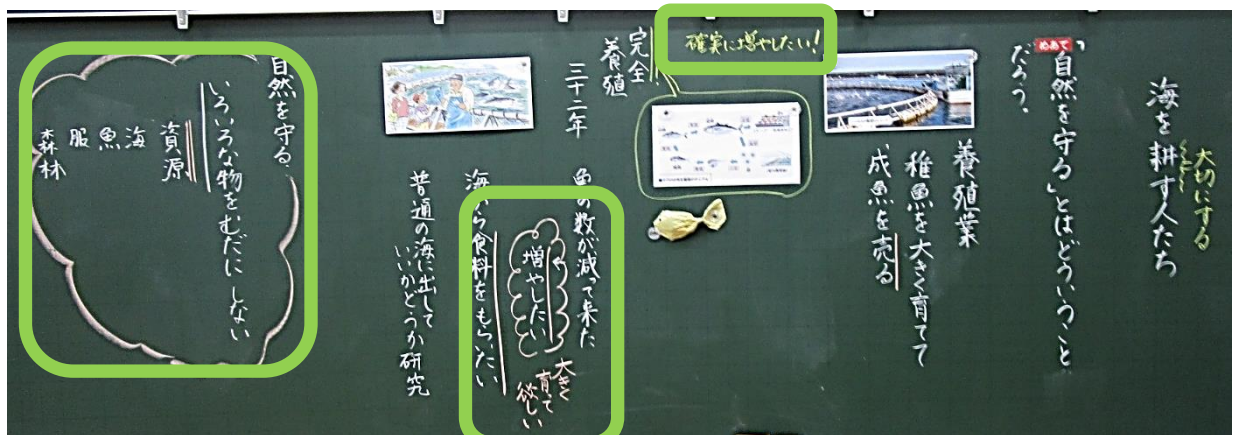
5・6年

考えさせたい場面だけを取り上げて提示し、学習を進める



「げんきにごあいさつ」(日常生活の指導の中で道徳的価値を目指した授業)

1・2・4・6・年うみ学級



「海を耕す人たち」

6年にじ学級

意識させたいところ、大切なところを色分けする